

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 遺伝子発現のタイミングの違いを生み出す新たな分子機構
2. 研究代表者： 堀江 健生（大阪大学 大学院生命機能研究科 教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題では、遺伝子の発現のタイミングの違いを生み出す新たな分子機構を解明し、遺伝子発現制御機構の新たな概念の確立を目指している。フェーズ1では、ホヤの神経細胞を用いて発現タイミングの異なる遺伝子群のエンハンサー解析から遺伝子の発現のタイミングを決める新しいメカニズムに関する基本的な情報を多数得た。さらに転写のライブイメージング技術の開発により、遺伝子発現のタイミングについて定量的解析を行った。フェーズ2では、エンハンサーの結合配列領域間の距離と発現時期の関係が検証され、その分子メカニズムの解明が期待される。

以上